

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ・東日本大震災による被災箇所の復旧を実施したが、今後施設・設備の経年劣化への対応や長寿命化対策が必要である。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	・図書館サービスが円滑に実施されるために必要不可欠な業務である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	・様々な観点で施設の維持管理を行い、利用者が快適に、また安心安全な利用ができるよう維持運営されている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	・施設・設備の維持管理や日常的な清掃業務・定期的な清掃業務など業務委託により実施しているが、長期・集約契約等により費用の軽減化を図っている。 ・書架周り等の日常清掃は職員により実施している。
	一次評価結果	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点) ・施設の維持管理は、利用者が快適に安全に使えるよう、また図書館サービスを支える上で不可欠な事業であり、効率的な運用も図られている。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる ・図書館サービス事業と一体的に行うことが必要不可欠な事業である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性（民間活動も含む） <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 ・図書館は、市民の生涯学習の拠点であり、市民生活に不可欠な施設になっている。
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ・図書館資料や各種の情報・機会提供について様々な観点での要望があり、提供できる環境整備が必要である。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	・図書館は、「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と連携して、市民の生涯学習の場を提供している。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	・図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基づいており、図書館資料は学習資源として活用され、市民の生涯学習を支援し、多くの利用が示すとおり有効性は高く、利用も伸びている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	・資料の購入費は、最低限界値以下になっている。職員においても全職員の2/3を非常勤職員で対応し、コスト削減を図りながら、各種サービス・事業を各図書館の状況に応じて提供している。
	一次評価結果	全体総括(振り返り, 反省点)	・本事業は、図書館の根幹的事业であり、利用者が必要とする資料・情報の収集・提供等を行うことにより市民生活を支えている。
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる ・図書館管理運営事業と一体的に行うことが必要不可欠な事業である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 笠間市の図書館は全国でも有数のサービス実績を上げており、市民から頼られている。今後とも市民の要望に応え、各種の資料や情報を提供し、生涯学習の拠点として高い水準のサービスを提供することが必要である。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画

事務事業番号

3

所属部課名

教育委員会 笠間図書館

事務事業名	子ども読書活動推進事業				評価区分	事務事業性質	政策的事業	校期基本計画	補助単独区分	所管省庁		
					評価事業	重要事務事業	—	重点担点				
総合計画体系	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕				新規・継続	継続	地域活性化	補助率			
	小政策	2 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります				開始年度	終了年度					
	施策	1 生涯学習				事業期間	H20	単年度繰り返し			共催者・関係団体	・読み聞かせボランティア等
	小施策	1 学習情報及び学習機会の提供										
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市子ども読者活動推進計画					
	一般	教育費	社会教育費	図書館費	図書館標準の事業	根拠法令	(法定)子どもの読書活動の推進に関する法律					
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無				
						直営	—	—				

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
<p>・「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)の成立により、本市でも平成20年3月「笠間市子ども読書活動推進計画」が策定され、「市立図書館の整備」や「市立図書館と学校図書館の連携・協力」等が方策としてあげられている。</p>	<p>・子どもたちが「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生を深く生きる力を身につける」ため、様々な機会と場所で自主的に読書活動が行えるようその環境を整備し、各種の事業を実施する。 (0歳児からのブックスタート事業やおはなし会事業、子ども読書フェスティバル、子ども映画会などの開催。学校などとの連携事業の実施。)</p>	<p>・事業計画から4年間のまとめと事業実施</p>	<p>・報償費 20千円 ・消耗品費 349千円 ・ボランティア保険料 17千円 ・委託料 3千円 ・資料購入費 (図書館サービスに計上)</p>
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	<p>・同上 ・子ども読書活動推進計画の策定</p>	<p>・同上</p>	<p>・同上</p>

5 事務事業の目的と手段		単位
目的	①対象(働きかける相手・もの)	乳幼児から高校生まで
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか、どういう状態にしたいのか)	<p>・図書館資料・読書を通して親子のふれあいや、語り合い・絆を確かなものにする。 ・事業への参加を通して子育て支援が得られ、読書活動や図書館利用が盛んになる。図書館・子育てでの支援と資料の提供をする。</p>
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	<p>・ブックスタートやおはなし会、子ども読書フェスティバルなどの事業を開催し、読書に親しむ機会を提供する</p>
	④対象指標	<p>乳幼児から高校生まで ブックスタート対象者 乳幼児から児童まで</p>
	⑤成果指標	<p>高校生までの貸出冊数 ブックスタート参加者 おはなし会・読書フェスティバル参加者</p>
	⑥活動指標	<p>児童書貸出冊数 ブックスタート開催日数 おはなし会・読書フェスティバル開催日</p>

9																		
事業費及び指標の推移																		
事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円														
			県支出金	千円														
			地方債	千円														
			その他	千円														
			一般財源	千円		3,930		3,918		389		400		400		400		400
事業費計(ア)		千円		3,930		3,918		389		400		400		400		400		
人件費	人件費	職員割合	人 千円	1.50	11,250	1.50	11,250	1.50	11,250	1.50	11,250	1.50	11,250	1.50	11,250	1.50	11,250	
		時間外	千円		29		44		183		180		180		180		180	
		嘱託臨時	千円		1,488		2,060		1,565		2,017		2,017		2,017		2,017	
		他課の協力分	千円															
		人件費計(イ)	千円		12,767		13,354		12,998		13,447		13,447		13,447		13,447	
トータルコスト(ア)+(イ)		千円		16,697		17,272		13,387		13,847		13,847		13,847		13,847		
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	児童書貸出冊数	冊	97,486		102,441		93,890		103,000		103,000		103,000		103,000			
	ブックスタート開催日数	日	8		8		8		8		8		8		8			
	おはなし会・読書フェスティバル開催日数	日	67		77		88		80		80		80		80			
対象指標	乳幼児から高校生まで	人	13,583		13,346		13,084		13,000		13,000		13,000		13,000			
	ブックスタート対象者	人	560		585		568		560		560		560		560			
	乳幼児から児童まで	人	8,770		8,608		8,445		8,400		8,400		8,400		8,400			
	高校生までの貸出冊数	冊			85,899		81,657		84,000		84,000		84,000		84,000			
成果指標	ブックスタート参加者	人	171		169		149		160		160		160		160			
	おはなし会・読書フェスティバル参加者	人	1,404		1,667		1,389		2,000		2,000		2,000		2,000			

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》
 ・「子どもの読書活動の推進に関する法律」の理念に基づき、本市でも平成20年3月「笠間市子ども読書活動推進計画」が策定され、0歳児(とその保護者)から小・中・高校生までを対象に各種の事業が実施されてきた。図書館側の整備や図書館と学校図書館の連携・協力等が方策としてあげられている。平成24年度は施策施行5年目を迎え、この間のまとめと今後の方策について確認と検討を行う。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	・法整備以前からの事業や法整備後の事業展開を経て、「笠間市子ども読書活動推進計画」の策定を行い各種の事業を実施してきており、法の理念に沿っている。 ・0歳児から始まる本事業は、子育て支援や定住化対策など市の総合計画事業の推進の観点からも必要な事業である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	・各種の事業実施にあたり予算措置がなないまま図書館ボランティア頼みの状況だけでは事業の進展に限界がある。 ・学齢期の子どもたちが常時いる学校(図書館)との連携が必要であり、学校図書館の整備(物的・人的両面)により更なる展開が可能となる。
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	・各種の事業実施にあたりほとんど予算措置がなく、図書館ボランティアの協力が欠くことができない状況にある。(市民の協力により成果をあげている)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	・保育園や幼稚園、学校と図書館、図書館ボランティアが連携して事業が実施されており、子育て支援や定住化対策などの観点からも有効な事業である。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
・本市が策定した「笠間市子ども読書活動推進計画」に沿った事業を行っており、0歳児とその保護者から始まる子育て支援、幼・保から小中高生に及ぶ子どもたち・市民への施策である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 「子どもの読書活動の推進に関する法律」「笠間市子ども読書活動推進計画」に基づく事業を、関係機関・団体と連携して推進しており、今後とも更なる継続・発展が市民生活に必要なものである。
	資源配分	現状維持	